

新青森県総合運動公園水泳場 基本計画概要書

整備基本方針

- 国民体育大会等の大規模な公式大会の開催及び通常時の県民の一般利用に配慮した施設計画
- ユニバーサルデザインに配慮した全ての人にとって使いやすい施設計画
- 多雪地域であることを考慮した安心で安全な施設計画
- 省エネルギー化と環境に配慮した施設計画

建築概要

場所：青森県青森市大字宮田字高瀬（新青森県総合運動公園内）

建築面積：5,300 m²程度

延床面積：8,800 m²程度

建物高さ：20m程度

階数：地上3階地下1階

整備諸室：国民体育大会等の大規模な公式大会を行うことと、一般利用に必要となる諸室整備とする。

観客者数：固定席と仮設座席の合計で2000席程度とし、固定席は1000席程度とする。

*車いす使用者席は10～20席程度確保する。

プール仕様

想定競技：競泳、水球、シンクロナイズドスイミングの競技を想定したプールとする。

*競泳は、公益財団法人日本水泳連盟の「公称50m国内基準競泳プール」の公認を取得し、公認プール施設要領の「国内一般プール・AA」の基準を満たすものとする。

*水球は、公益財団法人日本水泳連盟の「国内基準公認水球プール」の公認を取得する。

*シンクロナイズドスイミングは、国民体育大会での競技（少年女子デュエット）実施が可能となるよう公益財団法人日本水泳連盟から助言を得て仕様決定する。

プール材質：鉄筋コンクリート躯体製タイル仕上げとする。

プールサイズ：W26m×D52.5m×H2.1m程度とする。

その他の仕様：可動床・可動壁を設置する。

新水泳場50mプールとマエダアリーナ25mプールの位置づけ

25mプール：県民の健康増進等を目的とした一般利用プールとして想定する。

また50mプールを使用する大会時の練習用プールとして使用する。

50mプール：可動床によって水深を変化させることで、国民体育大会等の大規模な公式大会（AA級）を行うことと、通常時の県民の一般利用を想定する。

建物配置の考え方

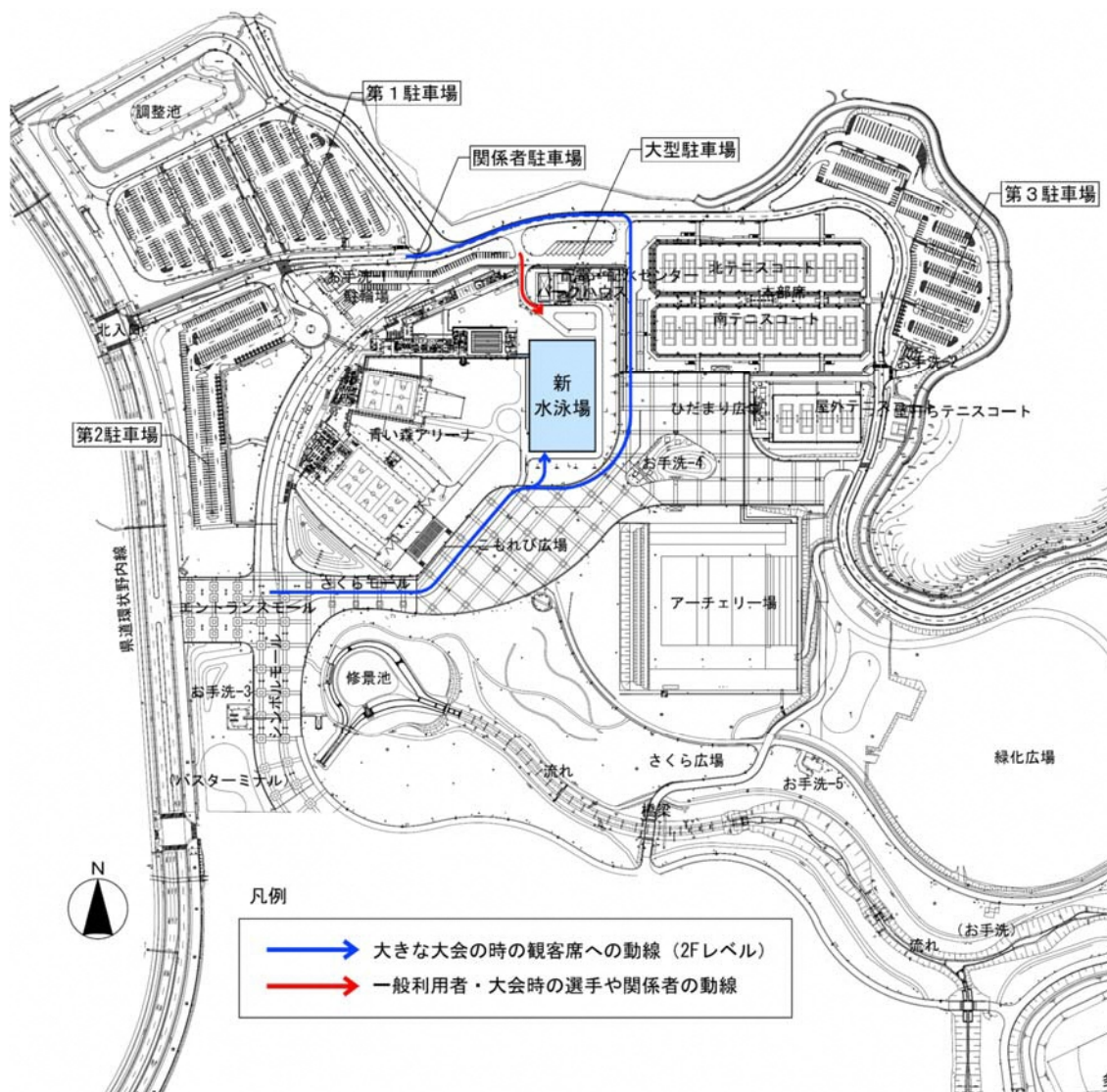
(1) 建物配置

新水泳場は、「新青森県総合運動公園基本設計報告書」の内容に則り、新青森県総合運動公園内の青い森アリーナ（現マエダアリーナ）の東側に配置する。

(2) 施設へのアプローチ

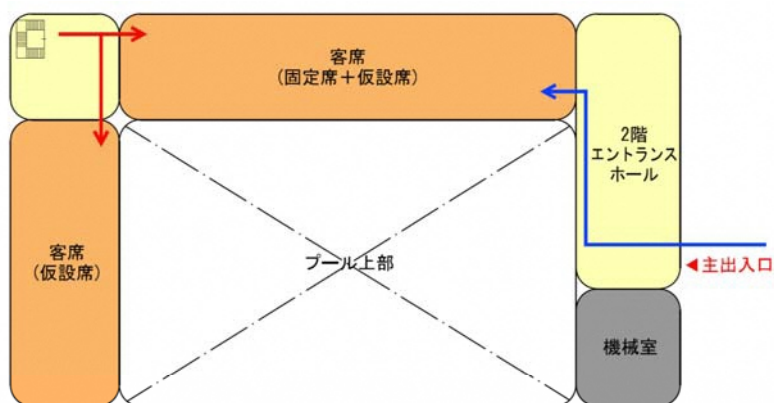
新青森県総合運動公園へのアクセスは車が主であり、新水泳場の利用者が使用する駐車場は、第1駐車場、第2駐車場、関係者駐車場が想定される。

このため、一般利用者と大会時の選手や関係者のアプローチ動線は、施設の北側からのアクセスとし、大きな大会時の観客席への動線は、広いオープンスペースが確保できる施設の南側から直接2階にアクセスできる計画とする。

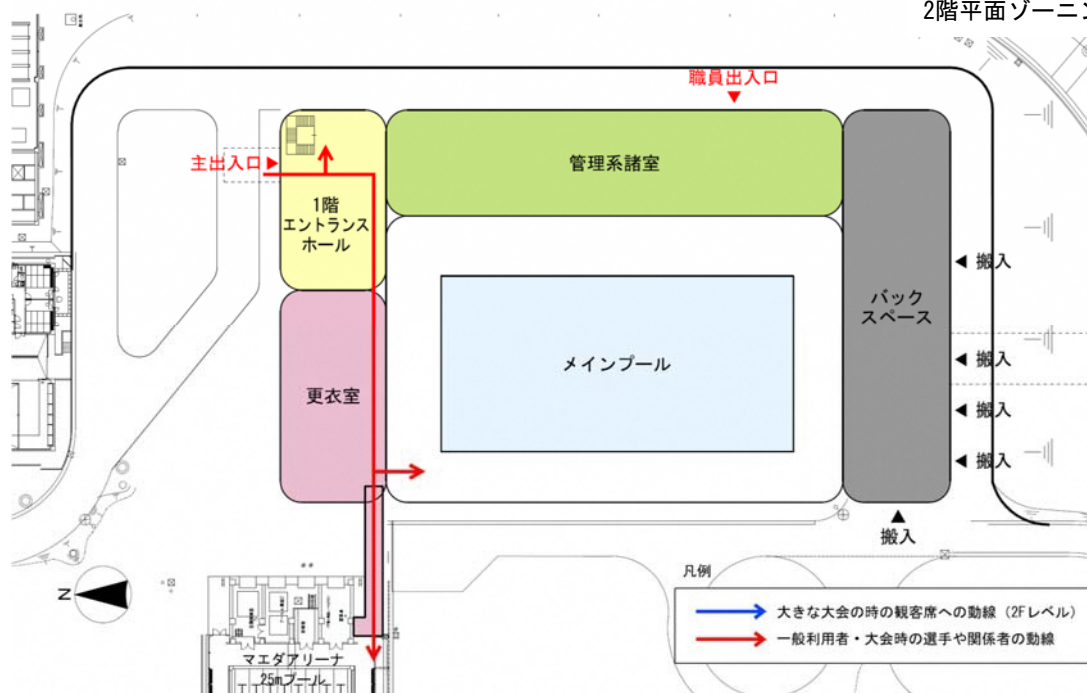


平面計画と動線の考え方

- ・公園内の2つのプールを効率的に運用できるように、マエダアリーナの25mプールと新水泳場を渡り廊下（幅4.0m以上が望ましい）で接続する。
- ・新水泳場の更衣室は、マエダアリーナの25mプールにもアクセスしやすい位置に配置する。
- ・一般利用者用エントランスは1階北側に配置し、観客用エントランスは2階南側に配置し、大会関係者と観客用の動線が交錯しない計画とする。
- ・エントランスからのアクセスしやすさに配慮し、管理系諸室は1階東側に、観客席は2階の東側（固定席）と北側（仮設席）に配置する。
- ・仮設席は国体終了後に他用途に改修することを想定する。



2階平面ゾーニング



1階平面ゾーニング

外観ボリュームの考え方

(1) 景観への配慮

周囲の豊かな自然と建物の両者が引き立つデザインとする。またプールの大屋根部分は、マエダアリーナとの調和も踏まえ曲面形状の屋根とする。

(2) 雪への配慮

マエダアリーナの25mプール部分の屋根は、新水泳場に向かって勾配がとられており、新水泳場の西側に雪が落下する。このため新水泳場の25mプールと正対する部分は陸屋根とすることで、西側に雪を落とさない計画とする。



南西側鳥瞰イメージ



北東側鳥瞰イメージ